

第3期白岡市教育振興基本計画に係る 関係団体ヒアリング調査結果概要

1. 調査概要

(1) 調査目的

社会教育活動の状況や市民の学習ニーズを把握し、今後の社会教育の充実に必要なことなどを検討する基礎資料とするため、社会教育に関わる団体を対象にヒアリングを実施しました。

(2) 調査期間

令和3年6月～7月

(3) 調査対象

		対象
1	社会教育団体	子ども会育成連絡協議会、体育協会、図書館ボランティア、PTA連合会、文化団体連合会、母子愛育会、ボランティア連絡会、町ぐるみん白岡
2	社会スポーツ団体	ソフトテニス連盟、体育協会、テニス協会
3	スポーツ推進委員（会長、副会長、部会長2名）	

2. ヒアリング内容

子ども会育成連絡協議会

【参加者について】

- 小学校に通う子どもたちが中心だが、小学生と一緒に遊んでくれる中学生や、高校生、社会人の若い世代もいる。
- 共働き家庭が多く、保護者は土日も仕事があるなどの都合から子ども会への参加者は減少傾向にある。
- 自分がお兄さん・お姉さんたちに遊んでもらった経験から活動手伝いをしてくれる中学生は増えてきている。

【課題】

- 子どもの人数が減少し、子ども会を作れないという相談が増えている。

【その他】

- ボランティアによる総合スポーツクラブが現実になるのであれば、子ども会でボランティアとして活躍している中高生・大学生にスポーツクラブにも参加してほしいと思う。
- もう少し公民館をきれいにしてほしい。

図書館ボランティア**【参加者について】**

- 本が好きで、子どもが好きな方が多く来ている。楽しんで活動している。

【課題】

- 保健センターと協力してブックスタートを行っている。母子愛育会で幼児教室などの周知が難しいのであれば、保健センターと図書館との活動の中で愛育会のチラシ配布などもできそうだ。「小さい子のためのおはなし会」は盛況なので、そういう場を利用することも考えられる。

P T A 連 合 会**【参加者について】**

- 学校に通っている子どもの親が参加しているため、現在は、団塊ジュニアの世代が多い。
- 自分が育った場への恩返しという気持ちを持って参加される方が多い。

【課題】

- 忙しさから、P T A に携わる若年層がいない状態である。
- 個人情報保護の問題もあり、個別に連絡先を交換しなければ他の活動をしている人や組織の窓口となる連絡先は分からない。人と人とを、組織と組織とをつなげていくような、つながりの拠点となるコミュニティサイトなどを作ると良いのではないか。
- 気概ややりがいを持って活動をしているからここまでの成果を上げられていると思うが、現在ある様々な課題への対応が必要だ。各団体でSW

OT分析をするなどして、自分たちの強み・弱みなどを省みて整理する時期がきているのではないか。強みや楽しみを整理することが、活動参加者の学習意欲や、新たな参加者を集めることにもつながると考えられる。

- 各団体の強み等を対外的に発信することで、団体同士のマッチングが可能になっていくと良い。

文化団体連合会

【参加者について】

- 定年を迎えたり、子育てを終えたりして自分の時間に余裕が出てきた方が、自分の趣味を生かしたい、新しく何かに挑戦したいという思いを持って活動に参加している。

【課題】

- 高齢化と会員減少が課題である。定年延長の流れから今まで以上に新たに参加する人の年齢は高くなっている。文化祭の展示の準備や事務局の運営も大変である。市職員のOBなどに手伝ってもらえるとありがたい。
- 文化祭の展示部門では、展示の順路等を工夫することで展示物を見る方が2割増えた。工夫次第で見に来てくれる方を増やせると感じている。
- 市の企画講座などをきっかけに新規会員が増えたこともあった。新規参加者を増やし、会員の若返りを図るには、市の企画講座も一つの方法だと考える。
- 束縛されずに自由に好きなことに取り組みたいという方も多い。発表の機会があるなど、文化団体連合会に入ってもらおうことのメリットを考えていかなければならない。
- 文連だよりの発行などで市との関わりはあるが、市職員の顔が見えない。文化祭で市職員も積極的に展示をご覧いただくなど、文化祭を盛り上げてほしいと思っている。

母子愛育会

【参加者について】

- 愛育会の参加者は30代・40代の方が多かった。現在は、仕事や介護が理由で若い新規の参加者がいないため、参加者の高齢化が進んでいる。
- 現在の参加者は、ほかの団体でも活動しているような、活動に慣れている方が多い。

- 他の団体で活動する母子愛育会の参加者をきっかけに母子愛育会に参加する人もいる。
- 活動後のランチが楽しくて活動を続けている方もいて、仲間づくりの場ともなっている。

【課題】

- 幼児がいる家庭の名簿を手に入れられないため、幼児教室の周知が十分にできていない。
- イベントで手形を作った方を対象に名簿を作って幼児教室の案内を配布しているが、それでも参加者は少ない。以前は幼児教室の参加者が200人くらいいたが、現在では80名程度に減少してしまった。

ボランティア連絡会

【活動概要】

- ボランティア連絡会は、社会福祉協議会に登録しているボランティアグループの横のつながり、そしてボランティアグループと社会福祉協議会をつなぐ役割を担っている。

【参加者について】

- 高齢化が進んでおり、60代も少ない。新たななり手も少ない。
- ボランティア連絡会は子育てを終えた方が8割、9割を占めている。
- 主婦が活動の中心であるため、自ずと活動が平日になってしまうということもあり、一部の団体を除いては学生の参加者がいない。

【課題】

- ボランティア連絡会と各ボランティアグループと一緒に活動することはあるが、ボランティアグループ同士の交流の機会は少ない横のつながりができたら良いと感じている。
- 昨年度は、コロナの影響で活動ができなくなってしまった。特に、特定の施設や設備を使わないと活動できないボランティアは、緊急事態宣言で施設利用が制限されるとほぼ活動ができなくなる。
- ほかのグループとの交流も図っていきたい。
- ボランティアをしたいが、参加する機会が無いという学生の話聞いた。学生の場合、定期的なボランティア活動よりも、夏休みなどの期間限定で参加できるものが良いと思う。
- 中学生の中にも、ボランティアをしたいが、部活動などの理由で参加できていない人がいるのではないかと。市や学校から学生にボランティアの窓口を広げてほしい。

- ボランティアしたい人からの申し出をきっかけに、お手伝いをお願いした診療所の例もある。ボランティアをしたい人からの申し出を、企業や団体につなぐ窓口があると、中高生・大学生くらいの子たちはボランティアに取り組めるのではないか。

町ぐるみん白岡

【活動概要】

- 「町ぐるみん白岡」は、白岡にあるボランティア団体、PTAの団体、子ども会、各小中学校、幼稚園関係、すべての団体をつなげるような役割を担っている。地域ぐるみで子どもを育てようという目的で立ち上がって10年くらい活動をしている。

【課題】

- 企画運営委員が話しあって企画・事業を決めているが、企画の内容は自分たちの分かる範囲・関わりのある範囲のものになってしまう。
- ボランティア団体や愛育会などの方にも活動を広げて、団体間のつながりを持たせる役割を担う「町ぐるみん白岡」になれたら良いと思った。
- 各団体のイベント参加者募集の周知などは協力できると思う。
- 「町ぐるみん白岡」のこれからの10年は、ニーズに応えられるような企画をしていきたい。
- 団体を広げていくことで、構成メンバーに若い方も入っていただいて、話を聞ける機会があれば良い。

体育協会理事

【活動について】

- スポーツを通じて、子どもたちが社会生活を送る上で必要な倫理観や社会性、資質を養っていく。成長して社会人として、立派に社会生活を送っている姿を見聞きすることもある。
- スポーツ少年団には海外との交流も行って文化や学校の様子の違いなどについて学べる機会もある。
- スポーツ少年団で様々な経験をした子どもたちが、社会人になってから、子どもたちの指導をしてくれる。そのような縦のつながりを大事にして活動している。

【課題】

- 少子化の影響もあるが、参加者が全盛期の半分となっている。
- スポーツ少年団は保護者と子どもと地域が一体となって活動していくべきだと考えるが、保護者の考え方や仕事の状況が変化してきてスポーツ少年団に入らなくなった。スポーツ少年団に入ると当番などの役割が多いという誤解もあるようだ。
- 小学生、中学生の間、ある特定の種目で活躍できなくても、高校生になって取り組むスポーツを変更したら力を伸ばして活躍した子も多いい

る。幼少期から一つの種目に特化するのではなく、様々な遊びや運動、スポーツに取り組む中で体力を養い、好きなことに向き合っていける環境が必要だと思う。そのためにも、いつでも自分の好きな運動や種目に取り組めるヨーロッパのような総合スポーツクラブが必要だと考える。

- 総合スポーツクラブがあれば、学校のクラブ活動以外のスポーツに取り組むことができるようになる。
- ヨーロッパにおける総合スポーツクラブでは、若者がインストラクターを務めており、インストラクターとして活動することで、大学受験で優先的に入れるような仕組みになっている。
- サッカーコートなどの施設も、社会人が夜でも使えるような環境が良いと思う。

ソフトテニス連盟

【活動について】

- 生涯スポーツとしての普及活動と、親睦を目的としている。

【参加者について】

- 現在、高校生から86歳の方まで参加している。白岡市体育協会発足時に集まった方、ホームページや町の広報などをきっかけに入った方もいる。
- 登録人数は80人ぐらいだが、実際参加している人は50人程度。人数は概ね横這い。
- 登録しているが活動を休んでいる人には、子育て中の女性が多い。
- 小中学生を対象にした教室を10年近く実施しているが、そこで活動に参加していた子が社会に出てから戻ってきて一緒に活動していることは誇りである。
- 転勤で白岡を離れても、戻ってきてからまた入る方も多い。
- 参加者の目的は様々であるが、勝負にこだわった人であっても、人との関わりや友達付き合いに重点を置いているから一緒に活動できるのではないかと思っている。
- ソフトテニスは二人でペアを組むので、より人との関わりの意味合いが強いのもかもしれない。

【活動の変化について】

- 活動を重ねると次第に活動が変化するのは当然のことである。健康維持目的で活動を始めたとしても、参加者が若くなるなど年齢構成が変化すれば勝負にこだわる人が出てくることもある。

- 手が空いた人が子ども対象の教室の面倒を見るようになることもある。
- 活動が歴史を重ねるにつれて、活動の場が外に広がるため、それに応じた変化がある。意識的に活動内容を変えたことは無い。

【課題】

- テニスコートは全部で13面あるので環境としては他自治体や他種目よりも恵まれているが、利用するには申し込みをしなければならない。「そこに行けばいつでもできる」という環境にしたい。
- 小中学生は土曜日に活動できているが、それ以外の構成員が土曜日活動できる場があると良い。新規に参加したい方も、そういう風になっていればもっと活動がしやすいのではないかと考える。
- テニス教室を行うとなると、道具を持っていない人も参加できるように道具をそろえなければならないが、管理の仕方が課題である。公的施設の中に貸しロッカーのような道具を置ける場所があると、教室の準備が柔軟に行える。
- ソフトテニスの普及と教室を充実させていければと考えている。白岡市内4つの中学校に合計8つのソフトテニスクラブがあるが、そのうちの3つではソフトテニス連盟のメンバーが、部活動の先生の手伝いをしている。高校でも同様の取組をする必要があると思っている。
- スポーツ振興に関しては、剣道や柔道、バレーなどができる多目的の大きな体育館があると良い。観客席のある施設があっても良いと思っている。

テニス協会

【活動について】

- テニス協会として、テニスの普及、発展に努めている。

【参加者について】

- 小学校1年生から6年生まで子どもたちから成るジュニアの活動がある。200人を超す時もあったが、子どもの数が減ってきた今は、150人ぐらい。ジュニアから育った子がインターハイやジュニアの全米選手権に出場したこともある。
- 大人の参加者は、テニスコートを安く使用できるということもあり、シニア、定年を迎えられた方が多い。平日はお年寄りが多いが、全体としては働く世代も参加している。

- 大宮や古河あたりから参加する方もいる。テニスをやりたいが、教えてくれる所が無いということで、白岡市テニス協会の話を変え聞いて電話をくれたり当日来たりすることもある。
- テニス協会の講習会が活動参加のきっかけになっている。単独で参加できるので、講習会で友達を見つけてグループを作って自分たちでプレイしていくようになる。
- 協会の講習会は年間通じて、金曜日と日曜日に行っている。約30年の実績がある。一回の活動人数がおおよそ50人から60人。一人で参加できることに加え、コート別に指導者がいることで、遠慮することなく自分のレベルに合わせて楽しむことができるため、参加者が多いと思っている。
- 講習会に元女子プロテニス選手の平木理化さんが来てくれた時には、こんなに活発に活動している協会は珍しいと言われた。埼玉県その他自治体と比較しても白岡の特徴だと思うので、ぜひともこれは続けていきたいと思っている。

【活動の変化について】

- 今後も、継続は力と思って、今の状態を継続していきたい。子どもたちに興味を持ってもらえるように練習方法や練習道具を工夫している。大人に対してもテニスにどう入り込んでもらうか、ということも検討しながら活動している。
- 講習会やレッスンをしていると、いくら年を重ねても、上手になりたいという気持ちはすごくあるということが分かる。そういう気持ちを損なうことなく、その人に合った指導を心掛けている。試合にも年齢を重ねた方も参加してくれるので、楽しめるように工夫して活動している。

【課題】

- ジュニアで硬式テニスをやっても、中学校には硬式テニスのクラブが無いため、ソフトテニスに移行する。高校に行くと、また硬式テニスに戻る。ジュニアで6年培ったものがなくなってしまっていて、一からソフトテニスを始めるということが当人にとって良いのかどうか。どうすれば中学校のクラブ活動に入り込めるか。中学生になると大人の講習会に参加する子もいるが、限られた方だけになってしまう。ジュニアにも、生涯スポーツとして続けてほしいと思っている。

スポーツ推進委員協議会

【活動について】

- 市民の健康づくりと仲間づくりを目的にスポーツを通じて活動している団体で、市のスポーツ振興の中心的な役割を担っている。スポーツ推進委員の中で毎年、年間の活動計画を立てて活動している。
- 市民の皆さんが少しでも楽しくスポーツに触れられるきっかけを作れるように、様々なスポーツの教室の企画運営、ニュースポーツの紹介などを行っている。ほかに、各団体からの支援要求や指導要求があればそれらを検討して支援をするという活動を行っている。

【参加者について】

- イベントは、市民対象で行っており、特定の層を狙って活動しているわけではない。イベントによるが、子ども・親子参加が中心、あるいは高齢者中心である場合が多く、その中間の年齢層の参加はやや少ない。
- イベントごとに人数の増減はあるが、経年での参加人数にあまり大きな変化は無い。ハイキングの企画での参加人数の推移を見ていると、行く場所の選定が参加人数の増減の要因になっていると感じている。行き先が個人でも行ける場所では、募集してもなかなか人が集まらないが、個人では行けない場所だと参加人数が多くなる。
- イベント参加者の中には、仲間づくりや友達づくりを求める方もいる。
- ハイキングでは、連れて行ってもらって案内もあるという利点があるので高齢の参加者が多い。ファミリー層は自家用車で好きな所に行って好きなように行動できるので、参加者には少ない。
- 全体的に見ると、友達の輪を作りたい、子どもたちを楽しませたい、という意識で参加している様子がうかがえる。障がい者の関係だと、最初は親が疲れたので、子どもの面倒を見てほしいというような側面もあったが、次第に親の方がスポーツを楽しむようになり、近年は積極的に参加している。

【ニュースポーツ等について】

- パラリンピックの競技種目にあるボッチャを今年度は計画している。4月、5月が新型コロナウイルスで中止になったため、今年度は6月に初めてイベントを開催した。各小学校6箇所を順番に回って開催しているところである。小学校を回ることで、親子での参加も期待できるし、それぞれの地区からの参加者も増えるのではないかと期待もある。
- 「健だま体操」で使う「健だま」*を、ゴールに置いたバケツに何回で入れられるかを競うもの考えた。それを5コース作って、順番に回る。障がい者の方をメインにしつつ、健常者も一緒に参加する。歩く、投げるなど、できる運動を中心にしたもので、ここ数年続けている。

- 障がい者の方は、一人で来られる方もいるが、多くは家族で参加する。1回に10～15家族くらい参加する。
- 声をかけたり、見守ったりしながら、障がい者の方に体を動かす機会を提供している。高齢者の方も一緒に来て楽しんでもらっている。

※全国的にはガンバルーンの名称で普及しているボール。空気圧を調整することで、体操の強度を変えることができる。

【新型コロナウイルス感染症の影響】

- 昨年一年間新型コロナウイルスで活動が出来なかった分、スポーツ推進委員の中で様々なニュースポーツ、ゴルフやペタンクなどに色々挑戦するなど自分たちの内部研修会の充実を図ってきた。結果、今年はポッチャを実施することになった。

【課題】

（イベント等の企画）

- 本当に幅広い年代を集めるためにも、イベントの魅力が目に見えて分かるような企画をしたいと思っている。今まで前の担当者から引き継いで継続している企画が多いが、それらを切り口にして参加者の年齢層を広げるような活動をしたい。
- ある年齢層に焦点を当てた場合、イベントから離れてしまう年齢層もある。各年齢層の希望を聞ければ一番良い。
- 20代、30代は個々のグループ等に所属していれば、その中で活動することが多く、30代後半から40代になると今度は子どもとの家庭の活動が多くなる。
- 今までの流れの中で内容を少し変えていくとか、ゲームの内容を変えるという活動がどうしても続いてしまう。

（イベント等の広報）

- さいかつボールという競技を推し進めて、チームを作ったり、大会を開催したりしていたが、今一つ盛り上がりには欠けていた。一方、隣の蓮田市では若いお母さん達が沢山グループを作って活動しており、それは、PTAの人達はその学区で集まって活動を始めたからだと言った。私達には、今のところ市の広報やポスターでしか広報活動ができていないため、参加者を広く募集したり、どのようなことをしたいのか聞いたりできるパイプが欲しい。教育委員会を通して、もっと各学校の子どもたちやPTAに情報を発信できればより良いと思なので、教育委員会にももう少し協力していただきたい。
- 蓮田市のさいかつボールのチームの中には、子どもが主体のチームがあったり、子どもの親のチームがあったり、年代を超えたチームが作られ

ている。一方、白岡市のチームは60歳前後の方が中心となっている。周りの市町村に比べて、活気が無いように見えてしまう。

- 白岡市は、市民全般に対してスポーツ推進委員の募集をかけている。他の市町だと、体育協会やPTA、公民館、教員など地域に密着している方達がスポーツ推進委員になっている。そのため、地域に密着した人脈が広くあるが、白岡の場合はそれが少し足りないと感じている。近年、20代後半の方、30代前半の方が一人ずつ、加わったが、若い方は少なく、60代以上が大半を占めている。スポーツ推進委員会の年齢構成によっても募集をかける手だてが少ない状況になっていると思う。声をかけられる範囲に限りがある。
- 回覧板での広報もあるが、各班長への負担を考慮すると難しい。

(交通)

- 大山地区が参加しづらい状況にあるのではないかと。大山地区は車での移動が前提となっているため、子どもは親が来ないと参加できない状況にある。
- 募集の仕方のほか、参加するための足も重要である。白岡市には市内循環バスが無い。他自治体では各公民館でビデオを流しているという話も聞いている。

(組織間の連携・交流)

- 県内の他市町村のスポーツ委員の活動などは分かるが、同じ市内のスポーツ少年団や体育協会の活動はほとんど分からない。各団体代表の顔合わせができるような集まりがあると良いと思っている。ハイキングにしても、同じような活動をしているほかの団体と集まるきっかけが分からない。
- スポーツ推進委員は、スポーツに関してコーディネートを担うが、コーディネートの手だてが無い。
- 社会教育団体のような、横のつながりを作れるような、集まる場面があれば、意見交換ができるのではないかとと思っている。そういう所でお互いを知り合っていけば、イベントなどでの協力・交流ができるのではないかと。だから、教育基本計画を作る時に関係する団体にヒアリングを行っているのであれば、その対象となった団体で一回集まるようなきっかけがあれば良いなと思っている。
- 以前にも、関連する団体が集まる場の話が出たが、立ち消えになっている。横のつながりづくりは誰がリードするのか。スポーツ推進委員から電話で連絡を取るとするのは、なかなか難しいように思う。

